

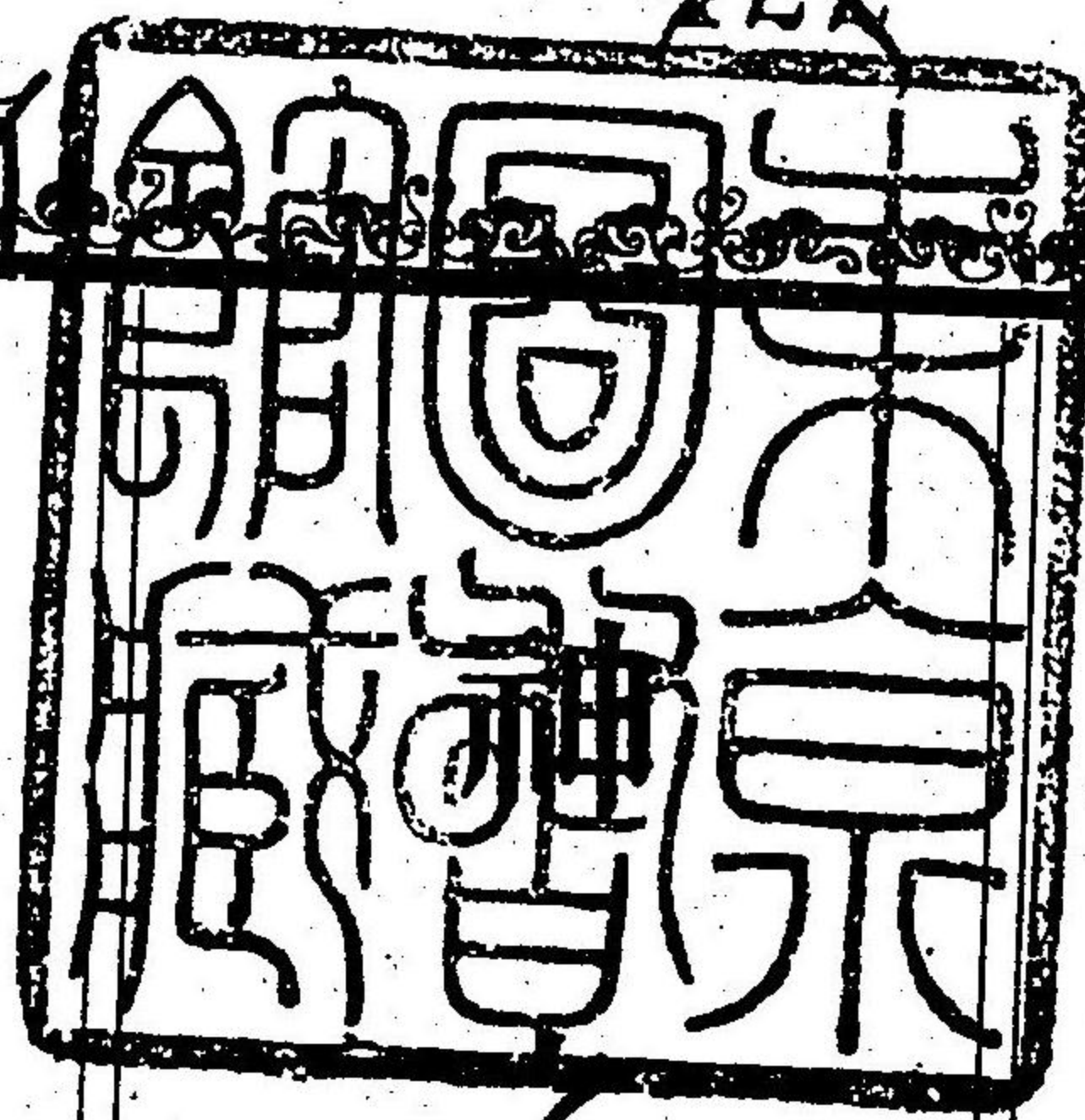
25

296

神之定旨
全

25
296

418
422
No 1312



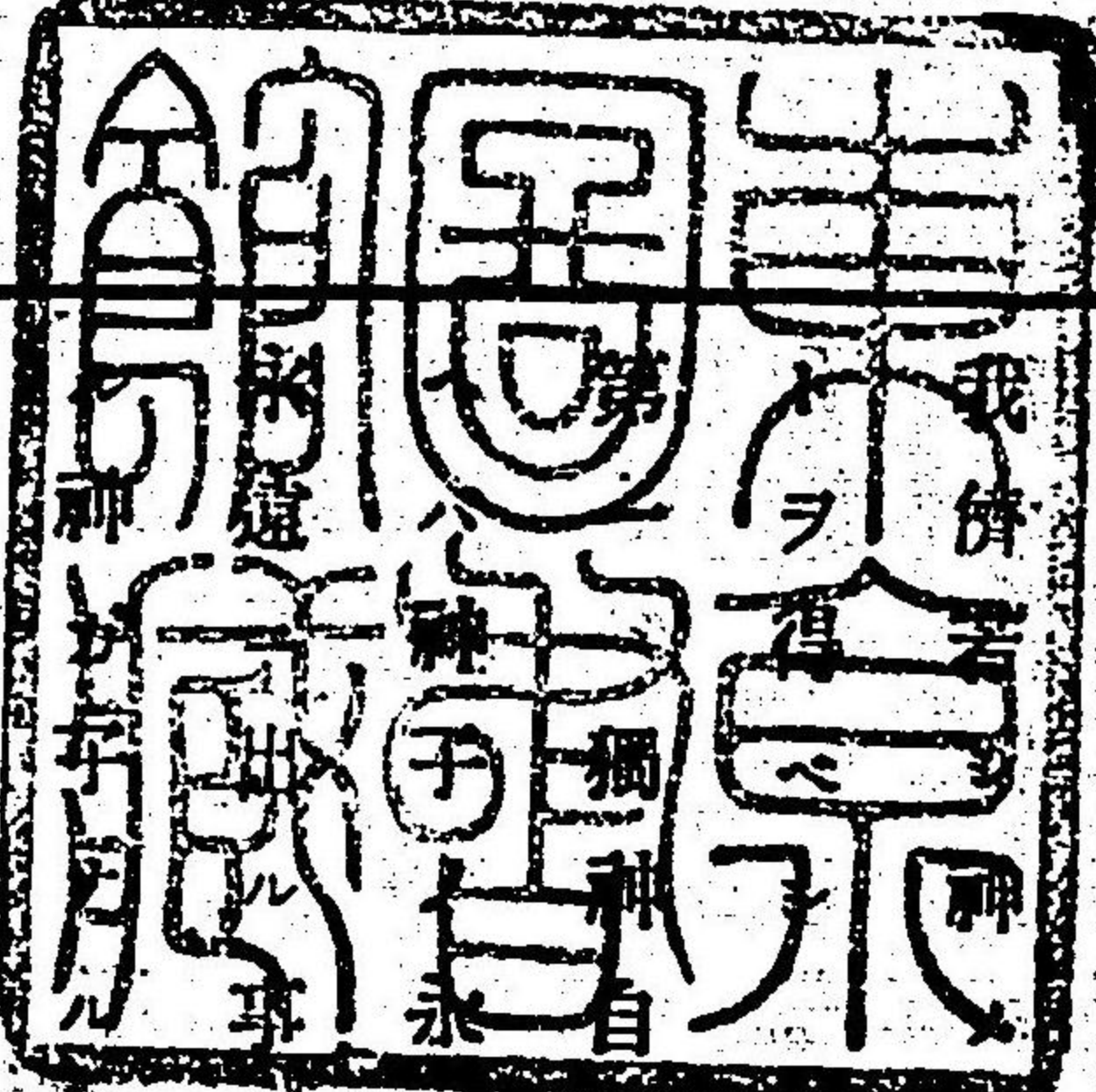
三 明治廿一年
月 年

明治學院藏版

之 定 旨 全

明治學院教授 博士アメルマン著
明治學院教授 井深梶之助譯





神ノ定旨

我佛者神ノ諸ノ行爲ヲ區別セバ之ヲ別テ三種トナスコ

第一 獨神自ラニ關係シテ受造物ニハ更ニ關係ナキ事例

神ヲ永遠ニ子タル事(詩篇二ノ七)聖靈ノ父ト子ヨリ

約翰十五ノ廿六(三)「ベルツナ」ノ聖交即チ父ナ

神ヲ愛シ給フ事(約翰十七ノ廿四)又聖靈ガ神

ノ深情ヲ究知シ給フ事(前哥林二ノ十)等ノ如シ

第二 神ガ萬事ノ有無ヲ定メ給フ所ノ事

第三 神ガ天地萬物ヲ創造シ之ヲ管理シ人が罪ヲ犯スヲ

停メズ己ノ特選シタル所ノ者ヲ救ヒ罪ヲ悔改セザル者ヲ

二
謂以給フ事ニ於テ其定旨ヲ實行シ給フ所ノ事
備此ノ第二種ノ行爲ヲ指シテ神ノ定旨トハ名クル也
ウエストミンステル略問答ニハ神ノ定旨ノ義ヲ左ノ如ク
解シタリ曰神ノ定旨トハ神己ノ榮ヲ顯ハサシ爲ニ己ノ意
ニ任セテ萬事ヲ預定シ給ヘル其永遠ノ目的ナリ(第七ノ問
ヲ見ヨ)
或ハ又神ノ定旨トハ即チ神ガ一切萬事ヲ有ラシメ或ハ之
レ存ルヲ許シ給フ事ニ就テ其永遠無窮自主獨立睿智公義
不變ナル決意ナリト解釋スルコトヲ得ベシ
尙一層細カニ之ヲ説ケバ神ハ總テ創造セラルベキ所ノ宇
宙ト總テ其中ニ於テ有ルベキ所ノ事ヲ無始永遠ヨリ詳知

給ヘル也神ハ己ノ意ノ儘ニ現在ノ宇宙萬物ヲ創造セン
ト決シ無限無量ノ智慧ヲ以テ宇宙ノ全體ヨリ其各小部分
ニ至ル迄悉ク之ヲ經營シ給ヒタレバ一事一物トシテ其決
意ノ外ニ出ルコトナシ又決シテ出ルコト能ハザルナリ然
テバ則チ宇宙ト凡テ其中ニ存在スル所ノ事物ハ悉皆神ガ
定メ給ヒシ所ノ唯一ノ完全ナル經營ノ諸部分ト見做スベ
キ也且凡テ宇宙ニ有ル所ノ各事モ亦其定旨ニ由ルト謂テ
可ナリ行傳十五ノ十八ニ曰神ハ世ノ始ヨリ其凡テノ所作
ヲ知給ヘリト實ニ或人ノ曰ル如ク天地ノ來歴ハ一卷ノ書
籍ノ如ク其中ニ記載スル所ノ事ハ每行每字悉皆開闢ノ先
ヨリ録セラレタル者ナリ

是ノ如キ神ノ定旨アル事ヲ論ズ
 聖經ヲ通觀スルニ何ノ處トシテ神ヲ天地ノ主ト爲ササル
 ハナシ神ハ己ノ聖旨ヲ實行シ己ノ意ニ任セテ萬物ヲ創造
 扶持シ給フヲ説ク又神ノ定旨目的決意ニ就テ説ク所少
 カラズ而シテ其言ノ明白ナルハ其法律ヲ説ク時ニ異ナラ
 ズ夫レ神ノ行爲ハ一トシテ智ナラザルハナシ然ラバ惟此
 一事ニ由テモ神ハ天地萬物ヲ創造管理スルニハ預メ之ヲ
 定メ之ヲ計リ給ヒシコト疑ヲ容レズ聖經中ニ神ノ定旨ノ明
 教アルコトハ是ヨリ神ノ定旨ニ就テ用弁ラレタル言ト其
 定旨ノ性質ト區域トヲ考察スルニ隨テ益々明瞭ナラン
 第一ニ聖經中ニ神ノ定旨ニ就テ種々ノ語ヲ用弁ズリ然レ

其意義ニ至テハ皆同一ノ真理ヲ顯ハス者也
 其一ニ定命○詩篇百四十八ノ六ニ曰主已ニ命ヲ定ム其レ
 之ヲ越ユベカラズ
 第二ニ神ノ旨○行傳二ノ二十三ニ曰此人ハ神ノ定メシ旨
 ヲ預メ知給フ所ニ應ヒテ解サル汝等ハ無法ナル人ノ手ヲ
 以テ之ヲ捕ヘ十字架ニ釘テ殺セリ○羅馬八ノ廿八ニ曰又
 凡ノ事ハ神ノ旨ニ由テ招カレタル神ヲ愛スル者ノ爲ニ悉
 ク働キテ益ヲナスヲ我儕ハ知レリ○以弗所三ノ十一ニ曰
 此ハ神世々ノ先ヨリ定給ヒシ旨ニ循ヘル也此旨ハ我儕ノ
 主イエスキリストニ由テ成就セリ○以弗所一ノ九ト十一
 希伯來六ノ十七等參考

其三 神ノ意○馬太六ノ十二曰汝意ノ天ニ成ル如ク地ニ
 モ成サセ給ヘ○以弗所一ノ五ニ曰其意ノ儘ニイエスキリ
 ストニ由テ我儕ヲ己ノ子ト爲サンコトヲ愛ヲ以テ預メ定
 メタリ○默示錄四ノ十一ニ曰主ヨ汝ハ榮ト尊貴ト權威ヲ
 受クベキ者ナリ汝ハ萬物ヲ造リ萬物ハ汝意ニ由テ有チ且
 造ラレタリ○路加二十二ノ四十二參考
 其四 神ノ定○路加廿二ノ廿二ニ曰人ノ子ハ果シテ定メ
 ラレタル如ク逝カン然レ人ノ子ヲ賣ス人ハ禍ナル哉○行
 傳四ノ廿八ニ曰是レ汝ノ手汝ノ旨ニテ預メ定給ヒシ事ヲ
 彼等ハ成セル也○前彼得二ノ八ニ曰又蹟ク石礎グル岩ト
 爲レリ彼等ハ言ヲ信セズニ因テ之ニ蹟ク此ハ彼等斯ク定

メラレタル也○行傳十七ノ廿六以弗所一ノ五希伯來九ノ
 廿七等參考

第二 神ノ定旨ノ性質

其一 神ノ定旨ハ永遠無窮也○行傳十五ノ十八ニ曰神ハ
 世ヲ始ヨリ其凡ノ所作ヲ知給ヘリ○以弗所一ノ四ニ曰夫
 レ神我儕ヲシテ其前ニ聖ク疵ナカラシメン爲ニ世ノ基ヲ
 置カザリシ先ヨリ我儕ヲキリストノ中ニ簡ビ云々○同三
 ノ九ヨリ十二ニ曰且イエスキリストヲ以テ萬物ヲ造リシ
 神ノ中ニ世ノ始ヨリ以來隠レタル奧義如何ヲ凡ノ人ニ悟
 ラシム是レ教會ヲ以テ天ノ處ニアリ政ヲ執ル者ト權威ヲ
 有ル者ニ神ノ萬殊ノ智慧ヲ知ラシメン爲ナリ此ハ神世々

ノ先ヨリ定メ給ヒシ旨ニ循ヘル也此旨ハ我儕ノ主イエス
 キリストニ由テ成就セリ○後提摩一ノ九ニ曰彼我儕ヲ救
 ヒ聖召ヲ以テ召給ヘリ是レ我儕ノ行ニ非ズ惟神己ガ旨ト
 世ノ成ラザリシ先ヨリキリストイエスノ中ニ我儕ニ賜ヒ
 シ恩惠ニ由ル也○羅馬十一ノ三十三ヨリ三十六前哥林二
 ノ七等參考
 其二 神ノ定旨ハ自主獨立ニシテ他ニ倚頼セズ○詩篇百
 十五ノ三ニ曰然レド我儕ノ神ハ天ニアリ己ノ意ニ適フ所
 ヲ行フ○同百卅五ノ六ニ曰凡テエホバノ聖旨ナル事ハ天
 ニ於テモ地ニ於テモ海ニモ淵ニモ悉ク之ヲ行ヒ給フ○以
 賽四十ノ十三ニ曰誰カ曾テエホバノ靈ヲ度シ乎或ハ其議

士下爲テ之ニ教シテ乎○羅馬九ノ十五ヨリ十八ニ曰神モ
 一セニ曰我惠マント思フ者ヲ惠ミ我憐レマント思フ者ヲ
 憐ムト然レバ願フ者ニモ趨ル者ニモ由ラズ惟惠ム所ノ神
 ニ由レリ聖書ノ中ニ神バロニ我汝ヲ立ルハ特ニ汝ヲ以テ
 我方權能ヲ顯ハシ又我ガ名ヲ徧ク世界ニ傳ヘシガ爲ナリ
 ト示シ給ヘリ然レバ神ハ憐レマント思フ者ヲ憐ミ剛愎ニ
 セント思フ者ヲ剛愎ニセリ○以弗所一ノ五ト六ニ曰其意
 ノマヽニイエスキリストニ由テ我儕ヲ己ノ子ト爲シコト
 ヲ愛ヲ以テ預メ定メタリ是レ其恩惠ノ榮ヲ讚メシメシ爲
 ナリ即チ愛スル者ニアル我儕ニ賜フ所ノ恩惠也○以賽十
 ノ十五、但以四ノ三十五、羅馬九ノ十九ト二十、同十一ノ三十

四十三三十六、以弗所一ノ十二參考
其三神ノ定旨ハ智シ○詩篇百四ノ廿四ニ曰エホバ曰汝
ヨ所造何ツ其レ多キ哉皆汝ノ智ヲ以テ造ル所ナリ○羅馬
十一ノ三十三ニ曰嗚呼神ノ智ト謙ノ富ハ深イ哉其法度ハ
測リ難ク其踪跡ハ索テ難シ
其四神ノ定旨ハ公義也○詩篇百十九ノ百四十二ニ曰汝
ノ義ハ永遠ノ義也○同百四十五ノ十七ニ曰エホバハ其凡
ノ途ニ於テ義ヲ其凡テ作ル所ニ於テ聖シ○但以九ノ十四
ニ曰我僂ノ神エホバ凡テ其行フ所ノ行ニ於テ公義也○詩
篇十一ノ七、同九十七ノ二、默示十六ノ五參考
其五神ノ定旨ハ永遠不易ナリ○詩篇三十三ノ十一ニ曰

惟エホバノ議ル所ノ者ハ永ク立チ其心ノ意ハ世々ニ立ツ
○箴言十九ノ廿一ニ曰人ノ心ニ多ク謀アリ然レドエホバ
ノ旨ハ立ツベシ○哀歌三ノ三十七、以賽四十六ノ九、ト十、羅
馬九ノ十一參考
其六神ノ定旨ハ必ズ成ル○以賽十四ノ廿七ニ曰萬軍ノ
エホバ已ニ命ヲ定メタリ誰カ之ヲ廢センヤ其手已ニ伸ビ
タリ誰カ之ヲ轉ゼンヤ○同四十三ノ十三ニ曰未ダ日アラ
ザルノ先ヨリ我ハ即チ彼也誰モ我ガ手ヨリ救ヒ出シ得ル
者ナシ我將ニ之ヲ爲サントス孰カ能ク之ヲ停メン
是ノ如ク神ノ定旨ハ永遠無窮自主獨立ニシテ他ニ倚頼セ
ズ睿智公義不變ニシテ必ズ成ルベキ者ナリ蓋造物主ハ即

子永遠無窮自主獨立公義不變ニシテ智慧權能共ニ成全ナ
 ル者ナレバ也
 第三 神ノ定旨ノ區域
 其一 汎ク之ヲ言ヘバ天地間ノ事一トシテ神ノ定旨ヲ洩
 ル、者ナシ○但以四ノ三十五ニ曰彼ハ天ノ衆軍及ヒ地ノ
 居民ノ間ニ在テ其意ノマ、ニ行フ而シテ誰モ其手ヲ止メ
 テ汝何ヲ爲ス乎ト云フ者ナシ○以弗一ノ十一ニ曰萬事ヲ
 其意ノマ、ニ行フ者己ノ旨ニ循ヒテ云々○默示四ノ十一
 參考
 其二 一層細カニ之ヲ言ヘバ
 一 他ノ事ニ由テ起ル所ノ事モ亦之ヲ洩レズ○箴言十六

一三十三ニ曰箴ヲ抽ケドモ其決定ハ凡テエホバニ由ル○
 以賽四十五ノ一ニ曰エホバ其膏ヲ受ケタル者即チシラス
 二 謂テ曰我曾テ彼ガ右手ヲ扶ケテ列國ヲ征服セシメタリ
 我將ニ列王ヲシテ無力ナラシメ彼ガ面前ニ扉ヲ開カシム
 ベシ而テ其門ハ閉ザルベシ同十三節ニ曰我義ヲ以テ彼ヲ
 起シタリ我將ニ其途ヲ示サン彼必ズ我が邑ヲ建テ我俘囚
 ヲ釋サシ是レ價ノ爲ニスルニ非ズ又賞ノ爲ニスルニ非ズ
 萬軍ノエホバ之ヲ言フト
 三 獨大事ノミナラズ些少ノ事ニ及ブ○創世記八ノ二十
 二ニ曰地ノアラン限ハ播種時收穫時寒熱夏冬及ヒ晝夜息
 ムコトナシ○馬太十ノ廿九ト三十ニ曰二羽ノ雀ハ一錢ニ

テ賣ルニ非ズヤ然ルニ汝曹ノ父ノ許ナクバ一羽モ地ニ落
 ルコトナシ汝大頭ノ髮又皆計ヘラル
 三 我儕ノ誕生ノ時ニ及ブ○詩篇百三十九ノ十六ニ曰我
 胎内ニ在テ尙未ダ形ヲ成サハル時汝ノ目已ニ之ヲ見我ガ
 百體日々生長シテ尙未ダ其一ヲ成サハル時凡テ汝ノ冊
 ニ録サレタリ
 四 我儕ノ住居ニ及ブ故ニ凡テ我儕ノ一身上ノ事ニ及ブ
 ○詩篇七十五ノ六ト七ニ曰蓋超舉ハ東ヨリ來ルニ非ス西
 ヲリ來ルニ非ズ南ヨリ來ルニモ非ズ乃チ神ハ士師ニシテ
 或ハ之ヲ倒シ或ハ之ヲ立ツル也○行傳十七ノ廿六ニ曰又
 一ノ血脈ヨリ出シ凡ノ民ヲ悉ク地ノ全面ニ住セ預メ其時

ト住ル所ノ界ヲ定メ給ヘリ
 五 我儕ノ死ノ時ト様トニ及ブ○傳道三ノ一ト二ニ曰天
 下一切ノ事都テ定時アリ萬務都テ日期アリ生時アリ死時
 アリ云々○以賽三十八ノ五ニ曰往テベゼキヤニ告テ言ハ
 汝ノ祖ダビデノ神エホバ斯ク曰我已ニ汝ノ祈禱ヲ聽キ汝
 ノ涙ヲ見タリ視ヨ我必ズ汝ノ日ヲ増加スルコト十有五年
 ナラント○約翰八ノ廿ニ曰彼ノ時未ダ至ラザレバ誰モ手
 ヲ出ス者ナカリキ○前撒母二ノ六參考
 六 人人自由ナル行爲ニ及ブ○以弗二ノ十ニ曰我儕ハ神
 ノ造リ給ヘル者也即チ我儕ヲシテ善事ヲ行ハシメン爲ニ
 キリストネエスノ中ニ造リ給ヘリ此事ハ神我儕ニ行ハセ

レトテ預備へ給レ所也○腓立ニノ十三ニ曰クハ神其善
旨ヲ行ハシトテ汝等ノ衷ニ働キ汝等ヲシテ志ヲ立テ事ヲ
行ハシムレバ也○
七 惡人ノ所爲ニモ亦及ブ○行傳ニノ廿三ニ曰此人ハ即
チ神ノ定メシ旨ト預メ知給フ所ニ應ヒテ解サル汝等ハ無
法ノ人ノ手ヲ以テ之ヲ捕ヘ十字架ニ釘テ殺セリ○同四ノ
廿七ト廿八ニ曰夫レ誠ニヘロデトポンテオピラト異邦人
及ビイエスラエルノ民相共ニ此城ニ集リ汝ガ膏ヲ沃ギタル
聖キ僕イエスニ逆ヘリ是レ汝ノ手汝ノ旨ニテ預メ定メ給
タル所ヲ彼等ハ爲セル也○猶太四ニ曰クハ神ヲ敬ハズ我
儕之主イエスキリストヲ棄ル者數人潛ニ教會ニ入タルバ

也彼等ガ刑罰ヲ受ルコトニ定メラレタル事ハ昔ヨリ預メ
録サレタリ○路加二十二ノ二十二前彼得ニノ八參考並創
世記三十七ノ廿八同四十五ノ七ト八同五十ノ二十參考
八 神ノ定旨ハ凡テ智慧アル生物ノ靈魂上及永遠ノ有様
ニ及ブ我儕ハ今人類ノ上ニ就テ重ニ之ヲ説カシト欲ス
(一) 神ハ罪ニ墮タルアダムノ子孫中ヨリ或者ヲ選擇シテ
其性質ヲ一變セシメ其罪ヲ赦シ之ニ永生ヲ與ヘタリ而テ
之ガ爲ニ神ハ己ノ子ヲ立テ救主トナシ一切ノ恩惠ヲ施ス
ノ媒ト爲セリ之ヲ名ケテ選擇ノ教理ト云フ
(二) 神ハ罪ニ墮タルアダムノ子孫中ノ或者ヲバ其罪ヲ犯
シ其身ヲ汚スニ任セ而テ其罪ヲ罰セント定メタリ

(二) 我儕ハ先ヅ第一言キリスト自ラノ言ニ由テ之ヲ証セ
マ馬太廿四ノ廿二ト廿四ニハキリストハ選擇セラルタル
者ノ事ヲ説キ給ヘリ○馬太廿五人卅四、四十一、四十六ニ曰
斯テ王其右ニ居ル者ニ曰ク我父ニ惠マレシ者ヨリ來リテ世
ハ始ヨリ以來汝等ノ爲ニ備ヘラレタル國ヲ嗣ゲ、遂ニ又左
ニ居ル者ニ曰ク罰セラレベキ者ヨリ我ヲ離レテ惡魔ト其使
者ニ爲ニ備ヘタル地ニ入レヨ、此等ノ者ハ窮ナキ
刑罰ニ入り義キ者ハ窮ナキ生命ニ入レシ○馬可十三ノ二
十、二十三、三十七、路加市ノ三十、同十八ノ七、約翰六ノ三十七
同十三ノ十八參考ニシテ
(三) 我儕ハ又使徒ノ言ニ由テ之ヲ証セン○羅馬八ノ二十

九、三十三曰夫レ神ハ預メ知給テ所ノ者ヲ其子ノ狀ニ效ス
セント預メ之ヲ定ム此ハ其子ヲ多ノ兄弟ノ中ニ嫡子メ
センガ爲ナリ又預メ定メタル所ノ者ハ之ヲ招キ之ヲ招キ
タル者ハ之ヲ義トナシ義トシタル者ニハ之ニ榮ヲ賜ヘリ
○同九ノ十一ヨリ二十三ニ曰其子未ダ生レズ亦善惡ヲ行
ザレド神ノ選給ヒシ聖旨ハ變ルコトナク行ニ由ラテ召ニ
由ル者ヲ顯ハサントテ長子ハ幼子ニ服シトリスガニ言給
ヘリ録シテ我ハヤコブヲ愛シエサウヲ惡メリキ有ガ如シ
神モトモニ曰我惠マシト思フ者ヲ惠ミ我憐マシト思フ者
ヲ憐ムト然レバ願フ者ニモ趨ル者ニモ由ラテ惟惠ム所ヲ
神ニ由レテ聖書中ニ神ハ言ニ我汝ヲ立ル其特ニ汝ヲモ

予我が機能ヲ顯ハシ又我が名ヲ徧ク世界ニ傳シガ爲ナリ
 ト示シ給ヘリ然レバ神ハ憐マント思フ者ヲ憐ミ剛愎ニセ
 ント思フ者ヲ剛愎ニセリ然レバ汝我ニ曰ン神何ヲ尙人ヲ
 責ルヤ誰カ其旨ニ逆フコトヲ爲ント嗟人ヨ汝何人ナレバ
 神ニ言逆フヤ造ラレシ物ハ造リシ者ニ向ヒテ汝何故ニ我
 ヲ斯ク造リシト曰フベケン乎陶師ハ同シ塊ヲ以テ一ノ器
 ヲ貴ク一ノ器ヲ賤シク造ルノ權アルニ非ズヤ若シ神怒ヲ
 顯ハシ其能力ヲ示サン爲ニ滅亡ニ備ハレル器ヲ永ク耐忍
 プコトヲナレ又榮光ニ預メ備ヘシ恩惠ノ器ニ其榮光ノ豐
 盛ナルヲ示サントセバ我儕何ノ言フコトアラシ乎トバロ
 トモ一セヲ異ナラシメタルハ誰ナル乎ヤコプトニサウヲ

異ナラシメタルハ誰ナル乎何故ニ神ハ均シク彼等ニ恩惠
 ヲ施サズ均シク救罪救拯ヲ賜ヲ垂レザリシヤ其故他ナシ
 神ハ其無限ノ智慧ヲ以テ然セマシト定メタルニ因ル耳○
 以弗所一ノ四ト五ニ曰夫レ神我儕ヲシテ其前ニ聖ク疵ナ
 カラシメン爲ニ世ノ基ヲ置ザリシ先ヨリ我儕ヲキリスト
 ノ中ニ簡ヒ其意ノマヽニイエスキリストニ由テ我儕ヲ己
 ノ子トナサンコトヲ愛ヲ以テ預メ定メタリ○前哥林四ノ
 七、後帖撒三ノ六ヨリ八、後提摩二ノ十九、提多一ノ一、腓立一
 ノ六參考
 (三)、神ハ或ル者ヲ選擇シテ之ニ永生ヲ與ヘ給フ也乃チ聖
 經ニ其明文アリ○行傳十三ノ四十八ニ曰永生ニ定メラレ

ナル者、信を以て下能く此語ヲ詭味スベシ、信ヲタル者ハ永生ニ定メラシキ下ニ非ズ、永生ニ定メラシキ者、信ヲタリト也。

(四) 此選擇ハ萬世ヲ始メヨリアト。○行傳十五ノ十八ニ曰、神ハ世ノ始ヨリ其凡ソ所作ヲ知給ヘリ。○馬太廿五ノ三十四參考。

(五) 此選擇ハ永遠不易ナリ。○約翰十ノ二十八ニ曰、我彼等ニ永生ヲ賜フ、彼等永遠亡ビズ、亦之ヲ我が手ヨリ奪フ者ナシ。○羅馬八ノ廿九ト三十、希伯來六ノ十七ヨリ十九參考。

(六) 此選擇ハ人間ノ所爲ニ依ラズ。○羅馬十二ノ五ト六ニ曰、此ノ如ク、今モ尙恩ヲ選ニ由テ遺レル者アリ、若シ恩ニ由

ラバ、功ニハ由ラザル也。否ラザレバ、恩ハ恩々スズ。○羅馬九ノ十一、提多三ノ五參考。

(七) 神ハ或ル者ハ其罪ヲ犯スニ任セ、而テ其罪ヲ罰セント定メタルコトモ、亦其明文アリ。○猶太四ニ曰、ソハ神ヲ敬ムズ、我儕ノ神ノ恩ヲ變テ色慾ヲ放縱ニスルノ緣トナレ、惟一ノ主ナル神ト我儕ノ主イエスキリストヲ棄ル者、數人潛ニ教會ニ入タレバ也。彼等ガ刑罰ヲ受ルコトニ定メラレタルコトハ、昔ヨリ預メ録サレタリ。○羅馬九ノ十五ヨリ十八、同九ノ二十二、前彼得二ノ八參考。

以上舉ゲタル所ノ明文ニ由テ、神ノ定旨ニ關スル聖經ノ教理ハ明白也。神ハ一切萬事智慧アル人間ノ自由ナル行爲ニ

至ルマテ預知預定シ給ヒシ也
 神ハ或ル事ハ自ラ直接ニ之ヲ行サント預定シタリ例ハ
 天地創造及ビ其法則ノ如シ然レ又他ノ事ニ至テハ其確定
 シタル所ノ法則ニ循ヒテ自ラ必ズ生ズベキ事ノ結果タラ
 シメント定メタリ例ハ現在ノ天地萬物ノ位置性質ハ種
 々ノ事件ノ繼續湊合ノ結果タルガ如シ櫛柑ノ果ハ之ヲ生
 ゼン爲ニ相和合協力シタル所ノ種々ノ原因ノ結果ナリ即
 チ其實、樹、花、光、熱等ノ諸物相合シテ一個ノ櫛柑ヲ生ジタル
 也然リ而テ神ノ定旨ハ惟ニ其熟シタル櫛柑ノ果ノミナラ
 ス凡テ之ヲ生ジタル所ノ事情ト行爲トヲ包含スル者ナリ
 是ヲ以テ我儕ハ聖經ノ教ニ循ヒ神ハ目的、方法、原因、結果共

ニ之ヲ定メ惟ニ一切ノ事ヲヨナラズ其事ノ由テ成ル所ノ
 境遇器具ニ至ルマデ之ヲ預定シタリト斷言スル也之ヲ人
 類ノ上ニ就テ説ケバ則テ神ハ人ガ己ノ意ニ任セテ萬事ヲ
 爲スコトヲ定メ且其事情境遇ヲ定メ又其行爲ハ自主自由
 ニシテ其必ズ有ルベキ事ヲ定メタル也然ラハ人ノ性質及
 ビ命數モ其前行タル所ノ事件行爲ト共ニ神ノ定旨中ニ包
 含スル也蓋宇宙間ノ事物一トシテ神ノ惟一ノ遠大ナル經
 營中ニ包含セザルハナシ而シテ自由ナル行爲ハ誠ニ自由
 ニ必然ナル事ハ誠ニ必然ニシテ其原因情形關係共ニ皆其
 中ニ包含スル也蓋其經營ハ一ニシテ分クベカラズ而テ其
 一部分ト雖其全體ノ完全ニ欠クベカラザル也

聖經ニ由ラズシテ神ノ定旨ヲ論ズ

第一 靜ニ宇宙萬物ヲ察スルニ其中ニ自ラ意匠經營ノアルアリテ其ノ如ク實行セラル、ヲ見ル然リ而テ此經營ハ預メ定メラレシ者タルコト明白ナリ然レモ人ハ萬物ニ超越スル者ナリ然ラバ人ニ就テモ亦神ノ預メ經營スル所アリテ其ノ如ク實行セラル、ハ他ノ經營ト異ナラズト信ズルハ理ノ當然ナリ

第二 凡テ宇宙ノ事ハ一ノ睿智、聖善、全知、全能ナル造物主ノ預定セル所ナリト爲スハ然ラズト爲スヨリモ遙ニ道理ニ合ヘル事ナリ

第三 神ハ萬事ヲ無始永遠ヨリ定メタルコトヲ知ル何ト

ナレバ神ハ無所不知ナレバ也夫レ事ハ必ズ有ルト確定セラル、ニ非レバ確知スルコト能ハズ然レモ必ズ有ルベキ事ナリトセバ先ヅ之ヲ預定セザル可ラズ事ヲ確カニ有ラシムルノ道唯ニアリ一ハ即チ其性ニ由テ然ラザルヲ得ザラシムル事ナリ例ヘバ酸水兩素ガ或分量ヲ以テ合スレバ必ズ水トナルガ如シ是レ即チ水ノ性ニシテ然ラザルヲ得ザル也凡テ世界ノ水ハ皆此方法ニ由テ成ル其他ノ方法ニ由テハ成ルコト能ハザル也酸水兩素適當ノ分量ヲ以テ相合スルキハ必ズ水トナル也其他ノ一ハ即チ神ノ定旨ニ由テ必ズ有ルコト是レナリ然レモ人ノ自由ナル行爲ハ前ノ方法ニ由テ確定スベカラザルコトハ辨説ヲ俟メ然ラバ神

ノ定旨ニ由テ確定セラレ、ノホカ道ナキナリ人或ハ曰神
ガ人ノ自由ナル行爲ヲ知ルハ惟其心意ヲ管理スル所ノ法
理ノ作用ヲ知ルニ因ルノミト然レ此等ノ法理ヲ立テ其
作用ヲ定メタル者ハ即チ神ナレバ其所爲ハ一切神ノ定旨
中ニ在テ確定セラレザルヲ得ザル也加之ナラズ凡テ神ノ
預言ハ即チ其預定ノ確証ナリ然ラザレバ神ハ如何ニシテ
將來ヲ確知スルコトヲ得ンヤ
第四 神ハ無始永遠ヨリ萬事ヲ確定シタルコトヲ知ル何
トナレバ神ハ永遠不易ナル者ナレバ也人或ハ曰フ神ガ人
間ヲ管理スルコトニ就テハ人若シ斯ク爲セバ神ハ必ズ斯
ク爲サント言フベキ耳ト語ヲ更テ之ヲ言ハバ神ハ乃チ人

ノ變ニ應シテ其行爲ヲ變ズト言フベキ耳ト此論ニ對シテ
ハ固ヨリ神ハ人ノ變ニ應シテ人トノ關係ヲ變ズル事ナキ
ニ非ズ即チ日々不義者ヲ怒レル神モ(詩篇七ノ十一)人其罪
ヲ悔イ福音ヲ信ズル時ハ之ガ慈父トナル也然レ此神ハ固
ヨリ之ヲ爲サント企圖シタル也是レ即チ其定旨ノ一部分
ナル耳ト答テ足レリトス果シテ然ラザレバ永遠不易ノ神
ニハ非ルベケレバ也
或ハ又說ヲナス者アリ曰ク神ガ人ノ罪ヲ贖フノ定旨ハ人
ノ墮落ニ由ル者也故ニ人尙未ダ罪ヲ犯ササルノ先ニ當テ
ハ其定旨アルベカラズト固ヨリ贖罪ノ定旨ハ人が罪ヲ犯
シテ後ニ啓示セラレタリ然レ此神ハ人が罪ヲ犯スヲ停メ

ザルコトヲ定メ且其罪ヲ犯スヲ預知シタル時ニ當テ其罪ヲ贖フ事モ定メタル也凡テ此等ノ事ハ神が無始永遠ヨリ定メタル所ノ一ノ經營中ニ包含セル事ナリトス然ラザレバ神ハ永遠不易ノ神ニハ非ルベシ

第五 神ハ無始永遠ヨリ萬事ヲ定メタル事ヲ知ル何トナレバ神ハ聖ナレバ也蓋無限ニ聖ナル者ハ必ズ聖善ノ道ヲ行ハシムルヲ以テ目的トスベシ然レモ之ヲ行ハシメシニハ萬事其目的ニ循ヒテ運動セシムベキ經營アルニ非レバ得ベカラズ

第六 其他ノ神ノ性徳ニ就テモ其永遠ノ定旨ニ關スル聖經ノ教ヲ証スルコトヲ得ベシ譬ヘバ其善ノ如シ一切ノ事悉ク預知預定セララル、ニ非レバ宇宙ノ未來ハ確乎タル能ハザルベシ

神ノ預知ト預定ノ別

預知ト云ヒ預定ト云フ其字義ハ乃テ同シカラズト雖然レモ若シ其一ニシテ眞ナラバ其他ノ一モ亦眞ナラザルヲ得ザル也蓋神ノ預知トハ即チ神其不限成全ノ知識ヲ以テ大小一切ノ事ヲ預メ確知シ給フ所以ナリ而シテ神ノ預定トハ即チ神其全知公義仁慈ノ意ヲ以テ一切ノ事ヲ其實ニ有ル如ク確定シ給ヒシ所以也預知ニ由テハ神其事ノ必ズ有ンコトヲ知リ預定ニ由テハ其事有ラシムルコトヲ定メ給フ

ナリ
 全知全能ノ神ハ獨リ無始永遠ヨリ存在シ給ヘリ然リ而シ
 テ何ノ時カ未ダ一物ダモナカリシ時ニ宇宙萬物ヲ創造シ
 始メ給ヒシ也故ニ凡テ此宇宙ニ有ル所ノ者ハ一トシテ神
 ガ故意ニ有ラシメ給ヘル所ノ者タラザルヲ得ザル也然シ
 テ神ハ萬事萬物ノ性質關係結果ヲ悉ク預知シ給ヘリ是故
 ニ神若シ自主自由ノ才カアル人ヲ造ラバ其如何ナル事ヲ
 爲スベキヤヲ知リ又之ヲ或關係ノ地位ニ立シメバ必ズ或
 事ヲ爲スベシト知リ之ヲ預知シナガラ此才カアル人ヲ造
 リ又其關係アル地位ニ立シメナバ之ニ由テ其預知シタル
 所ノ事アルベキコトヲ預定シタルコト辨ヲ俟ズ然ラバ則

チ全知全能ナル造物主ノ永遠無窮ナル經營ノ上ニ就テ之
 ヲ言ヘバ預知ト預定ハ同一ノ者ナリト知ルベシ
 或ハ又神ノ定旨ニ就テ聖經ニ教ヘラレタル所ヲ受ルニ困
 難ヲ覺ユル者アリ然レモ畢竟此困難ハ我儕ガ之ヲ理會ス
 ル能ハザルヨリ起ル者ナリ若シ時間ト永遠、限アル人ト限
 ナキ神、人が己ノ意ニ任セテ事ヲ爲スノ才カアル事ト神ノ
 絶對無限ノ主權、罪惡ノ存在ト神ノ聖德等ノ關係ヲ考察セ
 バ此事ノ全ク理會スベカラザル所以ヲ見ル難キニ非ルベ
 シ我儕ハ此等ノ事ノ如何ニシテ有ルベキヤ其方法ヲ理會
 スル能ハズト雖然レモ實際其事ノ存スルコトヲ知ル我儕
 ハ乃チ神ハ全知全能ナル天地ノ主宰タルコトヲ知ル又我

儕ハ人トシテ我が意ノ欲スル所ヲ行フノ才カアルコトヲ
 知ル神ノ言モ亦此二事ヲ教フ故ニ我儕ハ此二事ヲ信ゼザ
 ルヲ得ズ此二ノ真理ヲ如何ニシテ調和スベキカ是レ人ノ
 困難ヲ覺ユル所也然レ此困難タルヤ一派ノ神學ニ限ル
 ニ非ズ何派ノ神學ニ於テモ皆然リトス故ニ到底其論ノ歸
 スル所ハ神ハ果シテ此等ノ真理ヲ兩ナガラ吾人ニ啓示レ
 タルヤ否ト云フニ在リ而シテ其答辨ハ疎遜レテ神ノ言ヲ
 講究シテ之ヲ求ムベキ也而シテ其講究ノ結果ニ至テ人
 ノ理學ニ合フト合ハザルトニ拘ハラズ斷然之ヲ信ズベキ
 也人ノ理學或ハ誤謬ナキヲ保スベカラズ

神ノ定旨ニ關スル諸說

此事ヲ解スルノ困難ナルニ由テキリスト信徒中ニモ自ラ
 種々ノ異說アリ今其中最モ緊要ナル者ヲ左ニ舉ン
 第一 ソシニヤン派ノ說ニ曰神ハ一切ノ能ク知ルベキ所
 ノ事ヲ預知スト雖モ神モ能ク知ル可ラザル所ノ事アリ蓋
 他ノ事ニ因テ起ル所ノ事即チ人ノ心意ヨリ出ル處ノ事ハ
 神モ之ヲ預知スルコト能ハザル也彼等曰神ハ人ヲ造ルコ
 トヲ定メタリ而シテ人ガ罪ヲ犯シタル時ニ至テ始テ凡テ
 罪ヲ悔イ信スル者ハ之ヲ救ハント定メタル也
 第二 アルミニアン派ノ說ニ曰神ハ人ヲ道德的ノ行爲者
 ニ造ラント定メタリ(道德的ノ行爲者トハ即チ事ノ正邪善

惡ヲ辨別シ而シテ其責ニ任スベキ者ヲ云フ然リ而シテ人
 ノ心意ニ出ル事ハ必ズ他ノ事ニ因テ起ル事ナルガ故ニ固
 ヲリ之ヲ預防スベカラズ然レモ人ノ墮落ヲ先見レ而テ人
 類ノ爲ニ救拯ノ道ヲ設ルコトヲ預定シ而テ凡テ罪ヲ悔イ
 福音ヲ信ズル者ハ之ニ永生ヲ與ヘント定メタル也
 アルミニヤン派中或ハ神ハ自ラ他事ニ因テ起ル所ノ事ハ
 之ヲ知ルマシト決意シタル也ト説ク者ナリ
 第三 右ノ二派ヨリモ稍近代ノ一説アリ曰神ハ人ヲ造リ
 且其罪ヲ犯スヲ停メザルコトヲ定メ而テ天下萬民ノ爲ニ
 贖罪救拯ノ道ヲ立テ而シテ萬民ヲシテ若シ救ハレント欲
 セバ救ハル、コトヲ得ベキ地位ニ立タシメタリ然レモ一

人モ其恩賜ヲ受ルコトヲ欲セザランコトヲ先見シテ特別
 ニ或者ヲ選ミ其恩惠ニ由テ之ヲ促ガシ之ヲ新ニシ之ヲ潔
 ムル也ト此説ニ由レバ選擇ノ定旨ハ贖世ノ定旨及ビ人ガ
 キリストヲ厭棄スルノ先見ノ後ニ定メラレタル者ナリト
 言ハザルベカラズ
 第四 又一説ニ曰神ハ人ヲ造リ其罪ヲ犯スヲ停メズ而シ
 テ墮落シタル人類中ヨリ己ノ意ニ任セテ或者ヲ選擇シテ
 之ヲ救ヒ或者ハ其罪ヲ犯スニ任セント定メタリ神ハ其既
 ニ選擇シタル所ノ者ノ爲ニ己ノ子ヲ遣ハシ其選擇セザル
 所ノ者ニモ其恩賜ヲ及ボセリト此説ハ歐米諸國ナル改良
 教會ノ重ニ取ル所ナリトス

第五 又一説ニ曰神ハ其受造物中ノ或者ヲ救ヒ其他ヲ滅シテ以テ己ノ榮光ヲ顯ハサント定メ而シテ其定旨ヲ實行シテ人ヲ造リ罪ヲ犯スベキ處ニ之ヲ置キ且己ノ選擇シタル者ヲ救ハシ爲ニ己ノ子ヲ遣ハセル也ト

此説ハ選擇ノ定旨ヲ墮落ノ前ニ置キ且聖經ニ示サレタル所トハ異ナレル所ノ事ニ基カシムル者也聖經ノ教ニ由レバ選擇ノ定旨ハ神ガ己ノ意ニ任セテ罪人ニ施スノ權ナリ又正シク施ス所ノ恩惠ニ基クナリ罪人ノ罰セラル、ハ其罪アルニ因ルコトヲ記憶スベシ聖經ニハ其他ノ刑罰ハ之ナキ也

第六 其他ニ又人ノ自主ナルオカヲバ全ク之ヲ藐視シテ

神ヲ以テ罪ノ根源トナス所ノ説アリ此説ハ固ヨリ聖經ノ教ニ全ク反對セル者也

凡テ此等ノ説ニハ神ノ定旨ニ前後ノ差別アル如クニ説クト雖實ハ神ノ定旨ハ惟一ニシテ萬事ヲ包容シ前後ノ差別アル者ニ非ズト知ルベシ

反對説ニ答フ

第一 論者或ハ曰此教ハ神ヲシテ罪惡ノ根源タラシムル者ナリト答ヘテ曰此レアル可ラズ何トナレバ神ハ嘗テ人ニ罪ヲ犯スコトヲ命ゼズ又罪ヲ勸メズ罪ヲ好マズ却テ罪ヲ惡ミ(詩篇四十五ノ七)凡テ罪ヲ犯ス者ヲ怒リ(加拉三ノ十)永遠之ヲ罰スレバ也(後帖撒一ノ九)神ハ何故ニ罪惡ノ天地

問ニ侵入スルヲ停メザリシヤ我儕之ヲ全ク理會スル能ハズ然ト雖人ハ唯善ノミナラズ惡ヲモ行フノ才能アルニ非レバ全ク己ノ意ニ任セテ事ヲ行フ能ハザルコトヲ知ル且神ハ何ヲ以テ罪惡ノ侵入ヲ停メザリシヤ其主意ヲ周知スルコト能ハザルモ其主意ハ必ズ其凡ノ無限成全ナル性徳ト和合スルコト疑ヲ容レザル也

第二論者又曰若シ此教ヲシテ眞ナラシメバ人ハ萬事ヲ行フノ志向アル能ハズ何トナレバ人ガ務ムルト務メザルトニ拘ハラズ神ノ定メタル所ノ事ハ必ズ行ハルベケレバ也ト答テ曰誰モ平生ノ事ニ於テ此ノ如キ議論ヲ願ミル者ナシ農夫ハ種ヲ播カザレバ收穫ナキコトヲ知ル又人皆呼

吸セザレバ生活スル能ハザルコトヲ知ル蓋神ノ定旨ニハ唯收穫ノミナラズ播種ヲモ包含シ生活ノミナラズ呼吸ヲモ包含シ唯其目的ノミナラズ凡テ其目的ヲ達スルニ必要ナル方法ヲモ包含スル也是故ニ神ガ方法ト目的トノ關係ヲ定メタル事ハ人ガ事ヲ行フノ志向ヲ奪フ者ニ非ズ却テ之ヲ與フル者也

是故ニ人或ハ望ヲ失ヒ或ハ事ヲ計リテ失敗シタル時ニモ此教ノ爲ニ彼ノ免ルベカラザル所ノ命數ニ遇ヒタル如ク再ビ精力ヲ出スコトヲ休ムルコトナシ何トナレバ其失敗シタル原因ヲ考察シテ尙成功ノ望ヲ起シ或ハ其失敗ニ由テ大ニ悟ル所アリ其他ニ亦益スル所少カラザルモ計ルベ

カラス
 第三 論者又曰若シ此教真ナラバ學術家並哲學家ガ唱フ
 ル所ノ運命說モ亦真ナルベシト答テ曰運命ト云フ語ハ其
 意義頗ル邈然タリ故ニ先ツ其種々ノ意義ヲ定解スルコト
 緊要ナリトス
 其一 一種ノ運命說ニ據レバ凡テ天地間ニ有リ或ハ生ズ
 ル所ノ事ハ悉ク物質ト運動ノ結果ナリトス
 其二 又一種ノ運命說ニ據レバ萬物ノ原因ハ物質及ヒ運
 動ヨリハ寧ロ永遠無窮ノ虛靈ナリト思惟スベシト雖然レ
 此永遠無窮ノ虛靈ハ乃テ無知無覺ノ勢力ニシテ聖經ニ
 説ク如キ大智慧ノ神ニ非ズト云フ

其三 其他ニ又古ヘ行ハレタル所ノ一種ノ運命說アリ此
 說ハ神ヲ以テ宇宙萬有ノ獨一無二ノ必然ノ原因トナシ而
 シテ人ハ其思想ニ於テモ行爲ニ於テモ自由ナル者ニ非ズ
 ト説ク也此說ニ據レバ一切萬物原因結果ノ法ニ由テ束縛
 セラレ人ノ意モ亦其原因結果ノ法ヲ免レズ而シテ聯綿タ
 ル原因ノ接續中ニ於テ自ラ一原因タルル地位ナキ者ナリ
 トス
 夫レ聖經ノ教ハ此等ノ運命說トハ同日ノ論ニ非ル也故ニ
 神ノ定旨ノ教ニシテ真ナラバ運命說モ亦真ナリト云フハ
 大ナル誤ナリ蓋聖經ハ萬事皆全知全能ナル主宰ノ預知預
 定スル所ニシテ神ノ定旨中ニハ萬事其實ニ有ルガ如クニ

預備セラレ且人ノ自由モ亦其中ニ含有スルコトヲ教フレ
 六也
 第四 又此ニ上ニ舉ゲタル異論ニ彷彿タル異論アリ其論
 ニ曰神ノ定旨ノ教ハ萬事萬物ヲ必然ノ理ニ由テ管束スル
 ノ教ナリト此ニ於テモ亦我儕ハ所謂必然トハ何等ノ意義
 ナルカ先ヅ之ヲ定解スルヲ要ス何トナレバ其意義蓋四種
 アレバナリ
 其一 理學的或ハ形而上ノ必然ト稱スル者アリ冒口ハ理
 ニ於テ然ラザルヲ得ザルノ義ナリ譬ヘバ一物ニシテ同時
 ニ有リ且無キコト能ハズ或ハ一事ニシテ同時ニ同義ヲ以
 テ真且偽タルコト能ハザルガ如シ凡テ物ノ性ニ於テ然ラ

ザルヲ得ザラシムル所ノ者アル時ハ乃チ之ヲ名ケテ理學
 的ノ必然ト云フ也然レモ此ハ論者ガ云フ所ノ必然ノ理ニ
 非ル也
 其二 理論學或ハ論法的ノ必然ト稱スル者アリ此ハ理論
 ノ一事ニノミ適用スル者ナリ譬ヘバ總テ人ハ死スベキ者
 ナリト云フガ如シ總テ人ハ死スベキ者ニシテ我モ亦人ナ
 リトノ二事果シテ真ナラバ我ハ必ズ死スベキ者ナリトノ
 結局ハ理論學上必然ノ理也即チ理ニ於テ然ラザルヲ得ザ
 ル也然レモ是レ亦論者ノ所謂必然ノ理ニ非ル也
 其三 其他ニ亦物質的或ハ形而下ノ必然ト稱スル者アリ
 是レ蓋論者ガ云フ所ノ必然ノ理ナリ夫レ此必然ノ理ハ自

然ノ法理ノ永固不變ナル事ニ基ク也即チ此理ニ由テ此ニ
 或物質的ノ原因アレバ必ズ之ニ應ズル所ノ或物質的ノ結
 果アル也然レモ神ノ定旨ノ效果シテ眞ナラバ人ハ物質的
 ノ必然ノ理ニ由テ管束セラル、者ナリトノ論ハ自然ノ法
 理ハ其作用不變ニシテ人ノ心意ヲ管束スル者ナリトノ説
 ニ基ケル者也即チ此論ニ依レバ自然ノ法理ハ人ノ心意如
 何ニ拘ハラズ必ズ一定ノ結果アリト見做ス也我儕ハ斷シ
 テ此論ハ眞實ナラズト明言スル也何トナレバ神ノ定旨ノ
 教ハ神ノ定旨ハ人ノ心意ニ反シテ人ヲ動カシ或ハ其抵抗
 スベカラザル所ノ物質的ノ勢力ニ由テ人ヲ管束スルコト
 ヲ教ヘズ又之ヲ包含セザレバ也

其四 此ニ又道德的ノ必然ト稱スル者アリ即チ永遠不易
 ナル道德ノ理ニ由テ萬事萬物其實ニ有ルガ如ク有リ其實
 ニ起ルガ如ク起ルノ義也蓋此必然ハ確定ト云フニ均シ然
 レモ此意義ニ由レバ必然ノ理ハ更ニ人ノ心意ニ反對スル
 者ニ非ス却テ此意義ニ由レバ人ノ心意ノ承諾モ其中ニ含
 有スル者ナリ語ヲ更テ之ヲ言ヘバ道德的ノ必然トハ即チ
 道德的ノ原因結果ノ結合タルヲ猶物質的ノ必然ノ物質的
 ノ原因結果ノ結合タルガ如シ孰レニ於テモ原因結果ノ理
 ヲ出ザルナリ但道德的ノ必然ニ於テ原因タル所ノ者ハ人
 ノ志向、意思、情欲等タルノ差別アルノミ然レモ此等ハ人ノ
 心意ヲ強迫スル者ニ非ズ此意義ニ依レバ必然ノ理ハ神ノ

定旨中ニ包含スト云フベシ然レモ此ハ神ノ定旨ニ對スル
 正當ノ異論ニ非ズ何トナレバ此等ノ者ハ唯其事ヲ確定ス
 ルニ過ザレバ也

第五 論者又曰神ノ定旨ノ教ハ人間自由ノ理ニ合ハズト
 答テ曰然ラズ神ノ定旨ハ決シテ人ノ自由ヲ妨ル者ニ非ズ
 其調和ノ理ニ至テハ或ハ全ク解説スルコト能ハザル者ア
 ラン然レモ我儕ハ其決シテ相反セザル事ヲ知ル其所以ハ
 (第一) 神ノ定旨ハ其性質ニ於テモ作用ニ於テモ人ノ自由
 ト相反スル所ナシ神ハ萬事ヲ決定シ給フ然レモ人若シ己ノ
 意ニ任セテ自由ニ之ヲ行ハゞ是レ即チ神ノ定旨中ニ包含
 セラレタル也夫レ人ノ自由ハ無始永遠ヨリ定メラレタル

事ニシテ此定旨ノ永固不變ナルコトハ猶他ノ定旨ト異ナ
 ルコトナシ夫レ人ノ自由トハ自己ノ意ニ任セ之ニ反セズ
 シテ行フコトナリ人ガ始テ罪ヲ犯シタル時モ斯ク爲シタ
 ル也又常ニ斯ノ如クス而シテ神ノ定旨ハ更ニ之ヲ妨ゲザ
 ル也人ノ改心ニ於テ神ノ定旨ノ行ハルハ時ニモ更ニ自由
 ヲ妨ゲズ人ハ徹頭徹尾己ノ自由ニシテ且責任アル性ニ隨
 ヒテ行フ者也然レモ其行ハ即チ神ノ定旨ノ結果也
 (第二) 前ニ舉タル所ノ聖經ノ本文ニ由テ神ノ定旨アルコ
 トハ明白ナリ而シテ人ノ自主自由ナル事ハ己ノ意識ニ於
 テ十分ノ證據アリ故ニ此論ニ就テ當ニ要求スベキ所ハ此
 二事ヲ叙述シテ相反スルコト無カラシムルニアリ然リ而

シテ神ノ定旨ハ萬事ヲ決定スルニアリ人ノ自由ハ我ガ意
ノ向フ所ニ隨テ事ヲ行フニアリトセバ蓋此要求ヲ満足セ
シムル也

(第三) 加之ナラズ確定不變ハ人ノ自由ト相反セザル實事
アリ夫レ神ノ行爲ハ固ヨリ皆確定不變ナリ又皆自主自由
ナルコト疑ヲ容レズ然ラバ全能ノ神ニ於テ自由確定相共
ニ存在スルヲ得バ其受造物タル人類ニ於テモ此事ナシト
ス可ラズ且夫レ神ノ行爲ハ必ズ皆聖ナルベシ然レモ其行
爲ハ亦全ク自由ナルベシキリストニ於ルモ亦斯ノ如シキ
リストハ始終聖クシテ玷ナク雜ナキ事ハ確定セラレタル
事ナリキ然レモ凡テ其所爲ハ自主自由ナリキ聖經ノ教ニ

據レバキリストノ聖徒ハ終ニ至ルマデ聖潔ヲ保ツ者ナリ
然レモ之ヲ保ツ間モ常ニ自ラ自由ナルヲ知ル又凡テ人ノ
重生スルハ即チ聖靈ノ感化ニ由ルコトヲ信ズアルミニア
ン派ノ人ト雖敢テ之ヲ拒マズ然レモ凡テ重生ノ事ハ人智
ノ及ブ限リハ全ク自由ナルコトヲ知ル然レモ神ノ感化ニ
由テ我ガ靈魂ハ新ニ生ル、也加之ナラズ吾人ガ罪ヲ犯シ
タル時ノ經驗ニ由テモ確定ト自由ハ相反スル者ニ非ルコ
トヲ知ルベシ若シ神ノ恩惠アリテ之ヲ停ムルニ非レバ罪
人ハ遂ニ滅亡ニ至ルコト疑ナシ然レモ凡テ其爲ス所ハ自
由ニシテ自ラモ其自由ナルコトヲ知ル也(神學博士スミス
氏組織神學第二篇第六章參考)

第六 論者又曰果シテ此教ノ如クナラバ福音ノ招ハ眞實
 ナラズ又神ハ不義者ノ滅ブルヲ悦ビズトアルモ眞實ナラ
 ズ(以西結三十三ノ十一)又曰神ハ悔改スルコト能ハザル者
 ニ向ヒテ悔改ヲ命ズル者也又曰萬人救ヲ受ケ眞理ヲ曉ル
 ニ至ルハ神ノ旨ナリトアルニ非ズヤ(前提摩二ノ四)ト答テ
 曰此等ノ本文並ニ福音ノ招ハ神ノ仁愛ト其凡テ己ニ來ル
 罪人ヲ救フノ旨アルコトヲ顯ハス者也蓋神ハ誠命ト招ト
 ニ由テ其慈悲耐忍ヲ顯ハス也而レテ凡テ其招ニ應ジキリ
 ストニ從フ者ハ必ズ救ハル、也人若シ其罪ヲ悔改スルコ
 ト能ハズンバ是レ之ヲ悔改スルヲ欲セザルニ因ル悔改ス
 ル能ハザルガ故ニ欲セサル也ト云フハ正當ナラズ何トナ

レバ果シテ悔改セント欲セバ必ズ之ヲ能スベケレバ也故
 ニ人若シ福音ヲ聽キ而シテ之ヲ受ケザレバ是レ之ヲ受ル
 ヲ欲セザルニ因ル也實ニ萬人ノ救ヲ受ルコトハ神ノ命ナ
 リ然レモ凡テ救ヲ受ル者ハ神ノ眞理ヲ曉ルベキ事モ亦又
 神ノ命ナリ此二事ハ分離スベカラザル者ナリ人若シ眞理
 ヲ曉ルコトヲ肯ンゼズバ其人ハ救ヲ受ルコト能ハザル也福
 音ハ猶大陽ノ如シ黑暗ノ中ニ在テハ一切黑暗ナリト雖大
 陽一タビ照セバ白ハ其白キヲ顯ハシ黒ハ其黒キヲ顯ハス
 又大陽ガ地ヲ照ス時モ其地質ニ隨テ異様ノ結果ヲ生ズ福
 音モ亦此ノ如シ種々ノ人ニ臨テ其種々ノ性質ヲ顯ハス也
 (馬太十三ノ三ヨリ九、十八ヨリ二十三ノ播種ノ譬喩ヲ考フ

ベシ又人ハ宴會ヲ開カント欲シテ或者ハ必ズ其招ヲ受ザ
 ルヲ知ルト雖彼等ニ己ノ寛大ナルコト、彼等ノ不良ナ
 ル性情ヲ顯ハサソ爲ニ之ヲ招クコトアルベレ然レ而彼等
 若シ其招ニ應ゼント欲セバ主人ハ喜ビテ之ニ接クベシ
 或ハ問フ神ノ定旨殊ニ選擇ノ教ハ何人益アリヤト答テ曰
 救ヲ求ル者ニハ出精ノ原ナリ何トナレバ人若シ眞實ニキ
 リストヲ己ノ救主ト信ジ之ニ從ハント欲セバ必ズ救ハル
 ベキコトヲ知ル既ニキリストヲ信ジタル者ニハ大ナル安
 慰ナリ何トナレハ全能ノ神ハ彼等ノ救主ニシテ如何ナル
 誘惑患難ニ遇フトモ彼等ハ神ノ永遠ノ慈愛中ニ在テ安全

ナルコトヲ知ルマタ此教ニ由テ愈羅馬十二ノ二ナル此世
 ニ效フ勿レ汝等神ノ全ク且善ニシテ悦ブベキ旨ヲ知ラン
 ガ爲ニ心ヲ化テ新ニセヨトノ神ノ誠命ヲ守ルノ心ヲ勵ス
 ベシ未ダ悔改セザル罪人ノ爲ニハ常久ノ警戒ナリ何トナ
 レバ神ノ招ニ應ジキリストヲ信ジテ其救ヲ受ルコトヲ終
 ニ選ブニ非レバ一日モ安心スルコト能ハズトノ神ノ警戒
 アルコトヲ知ルノ外ハ己ニ就テ神ノ定旨ノアル所ヲ知ル
 コト能ハザレバ也且彼ハ既ニ罪ニ定メラレタル者ニシテ
 之ヲ免ル、ノ道ハ惟一ノ救主イエスキリストヲ信ズルノ
 外ナキ也而シテ神ノ定旨ニ由レバキリストニ從フト從ハ
 ザルハ其自ラ擇ブ所ニアル也約翰三ノ十八ト十九ニ曰彼

ヲ信ズル者ハ罪ニ定メラレズ信ゼザル者ハ既ニ其罪定マ
レリソハ神ノ生給ヘル獨子ノ名ヲ信ゼザルニ因ル罪ノ定
ル所以ハ光世ニ臨リシニ人其行ノ惡キニ因テ光ヲ愛セズ
反テ暗キヲ愛スレバ也

神之定旨終

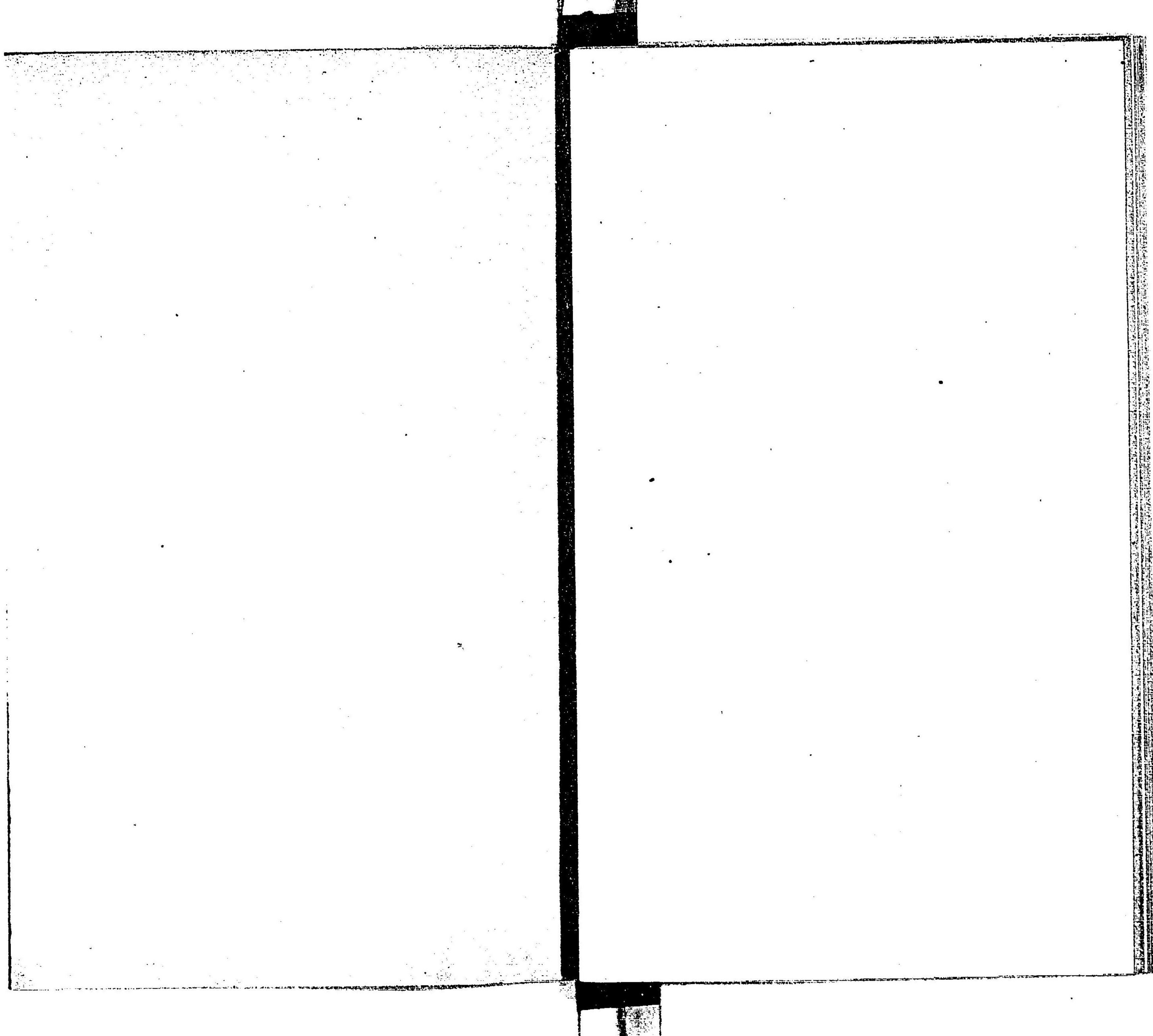
明治廿一年三月八日出版
全 二月五日印刷

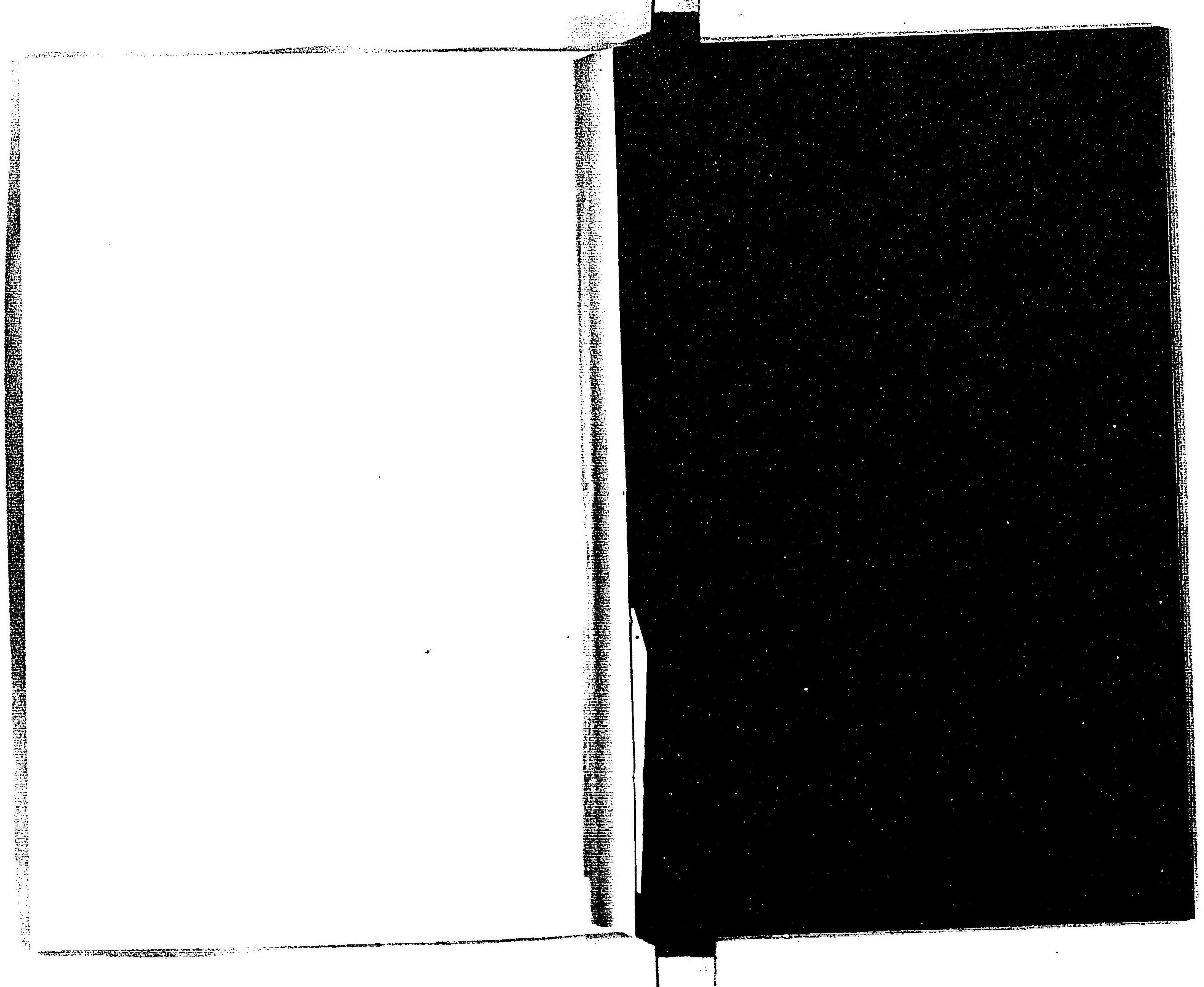
著作兼
發行者

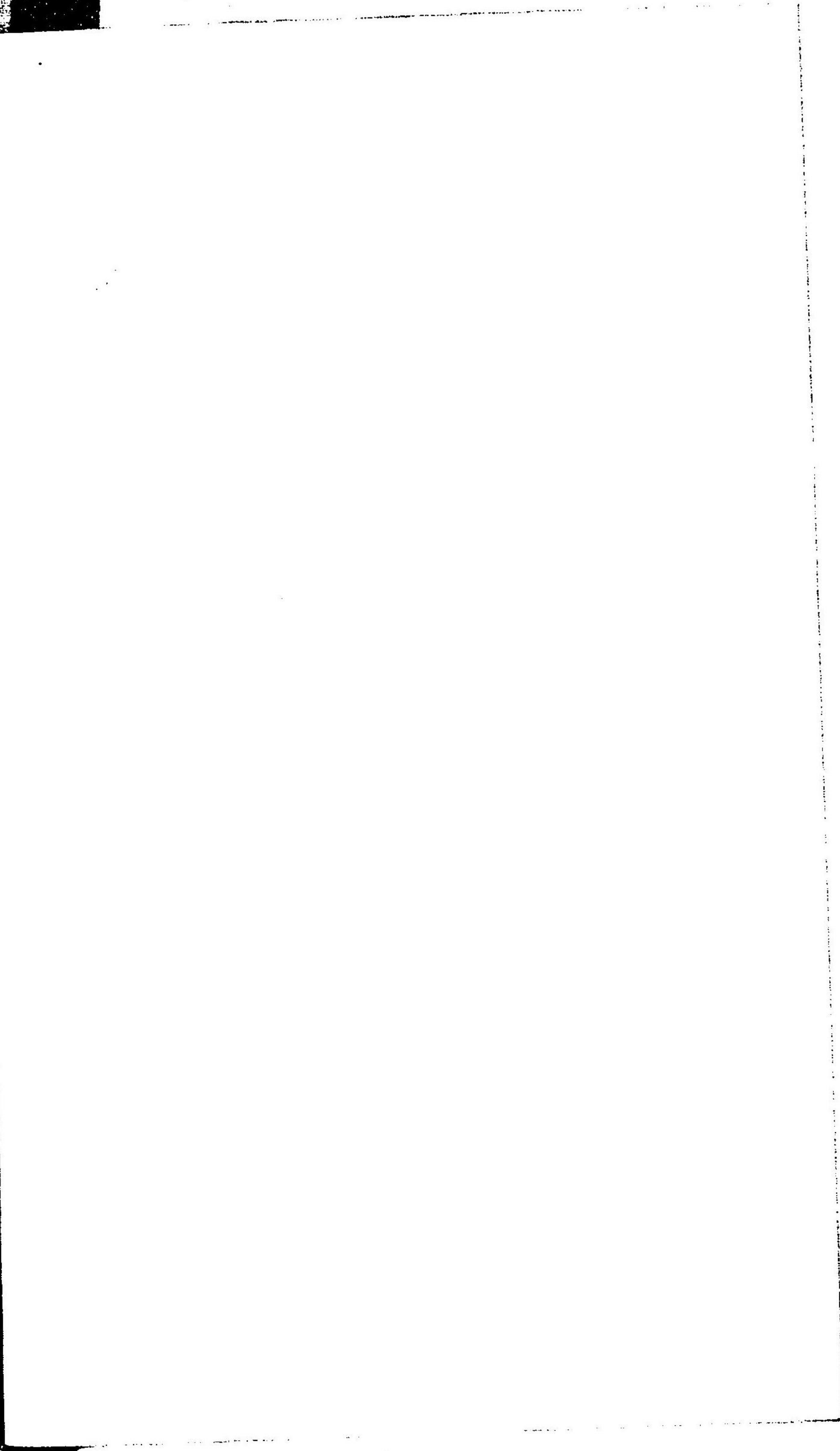
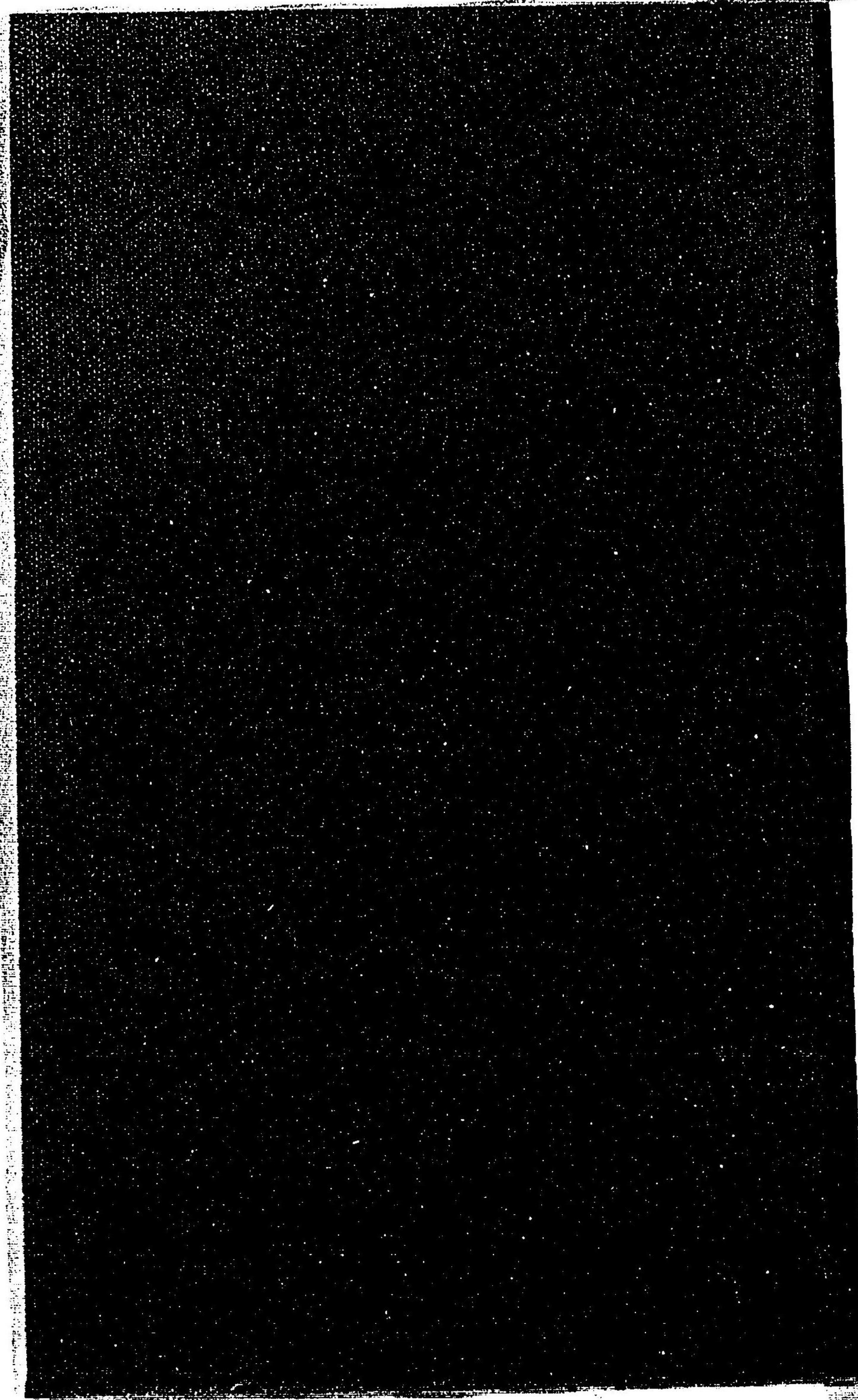
東京麻布雙箭町三番地
井 深 梶之助

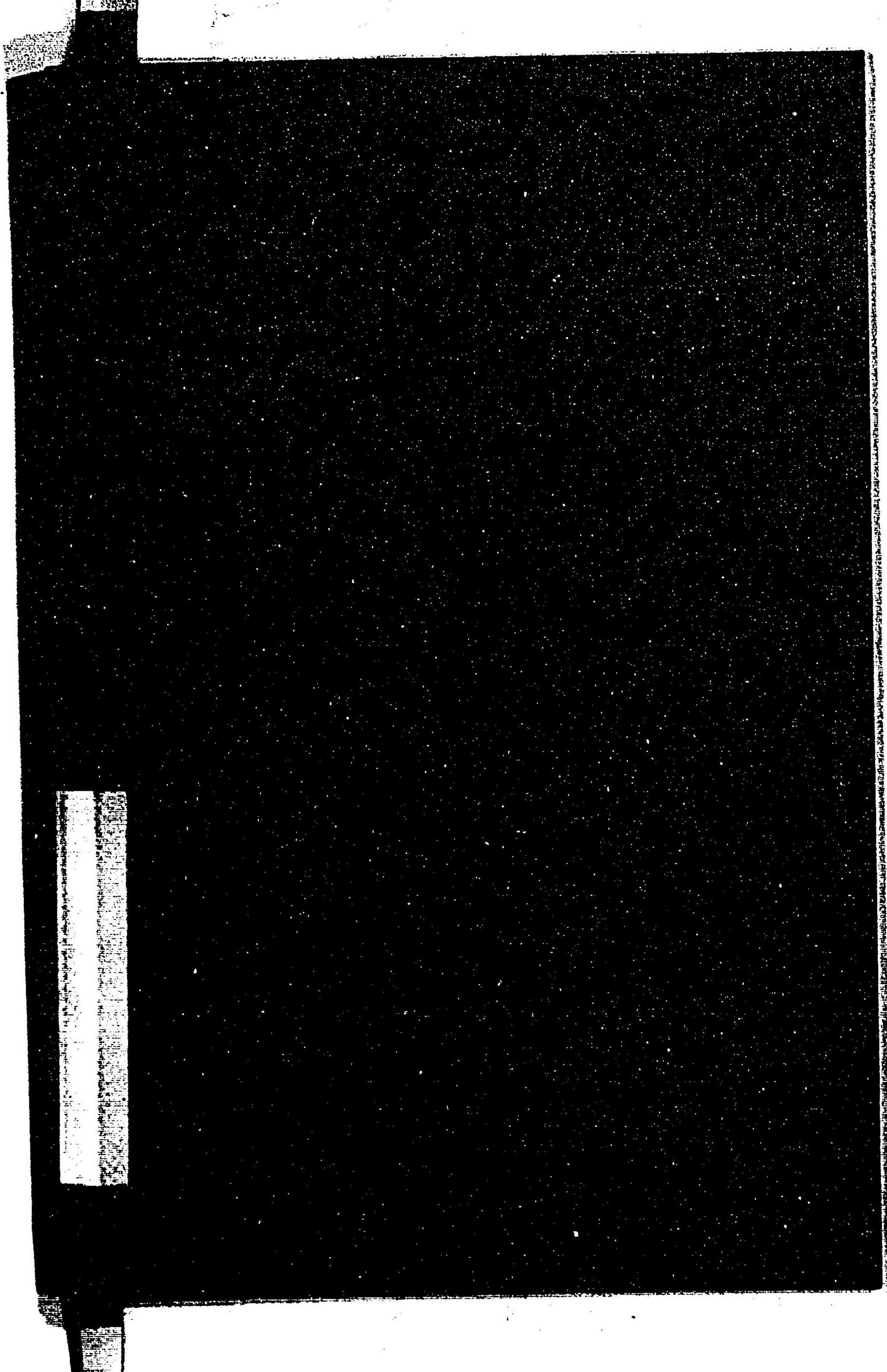
印刷者

東京日本橋區兜町壹番地
製紙分社
廣 瀬 安 七









25
296

神之定旨

国立国会図書館

020341-000-6

25-296

神之定旨

アメルマン/著

M 2 1

ABI-0147



